

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

小城市牛津小学校

今年の5月、6年生対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、その向上について対応策をまとめました。今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思っております。ただ、本調査は、小学校第6学年と中学校第3学年と限られた学年が対象であり、教科も国語と算数（中学校は国語、数学、英語）に限られています。したがって、この調査によって測定できるのは、児童の「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」を表したものに過ぎません。以下に分析結果の概要についてお知らせいたしますが、それをご了解の上、ご覧ください。

本校では、国語、算数以外の教科も含め、総合的に児童の学力向上を目指し、教育指導の充実や学習状況の改善に努めていきます。

■ 調査期日

2021/5/27（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

（1）教科に関する調査（国語・算数）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等

（2）生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面関する調査
- 国語、算数への興味・関心、授業内容の理解度、自宅学習や読書、ゲーム等の時間など

◆令和3年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・知識・理解については、県平均より下回っており、特に漢字の送り仮名や、思考に関わる語句の理解が課題となっている。
- ・思考・判断・表現についても県平均より下回っており、特に「キーワードや形式段落の要点」、「構成の中の事実と感想の役割」を意識した読み取りに課題が見られる。
- ・正答数分布グラフから、二極化の傾向が見られるため、中位の児童の学習の定着と、高位の児童の発展的学習が課題である。
- ・後半の設問にいくにつれて無回答率が上がっていることから、問題を読み取る力に課題があると考えられる。誤答の仕方は、県全体の傾向と同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係はおおむねできている。 ・言葉の使い方の正答率は、約8割とれているが、平均を下回っている。 ・思考に関わる助詞、助動詞となる「より」の使い方を理解していない。 ・文中の中に出てくる漢字が書けていない。 (音読みより訓読みが苦手) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字については、小テストを定期的に行い、問題数をこなすことで使い方に慣れさせる。 ・接続語や接続詞などを豊富に扱う問題集を活用することで、言葉の特徴や使い方を習得し、問題で活用できるようにする。 ・比較の「より」は普段の会話で使うが、それ以外の「理由」や「時間」を表す「より」については使い慣れていないので、読書で語彙を豊かにし、授業や会話の中で意識して使うようにする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・単一の資料の読み取りは、県平均をやや下回るが、他の設問より正答率は高い。 ・条件に合うように書きかえる問題ができてない。無回答率も高い。 ・事実と感想の区別がついていない。 ・複数の問題文から、解答に必要な箇所を見つけ出すことができていない。 ・文章を大きな構成としてとらえ、どのように構成されているか理解できていない。 ・キーワードを見つけ、形式段落ごとの要点をまとめながら読むことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、「キーワード」や「事実と感想の区別」、「形式段落ごとの要点」など、学年ごとの重点指導事項を指導者のみでなく児童にも意識させ、習得させるようにする。 ・自分が書いた文章を「つぼみタイム」で友達と交流し、友達の書き方を知ることで、様々な表現方法や書き方を知る。 ・文型や定型文を示すことで、どの児童にも取り組めるようにする。 ・学習のふり返りで文字数を指定したり、使う言葉を指定したりすることで、条件作文を書くことに慣れさせる。 ・国語科に限らず、他教科でも資料を読み取る場面を設定し、慣れさせる。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

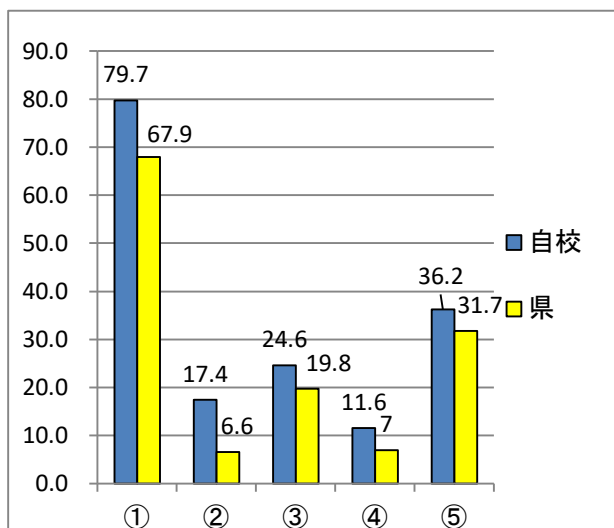
- ・全体的に全国平均を大きく下回っている。特に「知識・技能」で大きく下回っている
- ・問題の後半も無回答率は少なく、最後まで粘り強く取り組んでいたと思われる。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」の領域では、他の領域と比べ正答率が高く、複数のデータから特徴や傾向を読み取ることができている。 ・二次元表の読み方は理解できている。 ・「図形」の領域において、図形をずらしたり回したりして面積を求める問題では、全国平均・県平均ともに下回っている。図形に苦手意識があると考えられる。 ・問題に示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理することが苦手である。 ・三角形の面積を求める公式について理解できておらず、示されたすべての辺の長さに着目して立式しており、必要な情報を選び出すことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面をイメージさせるために問題を言い換えたり、図に表したりして把握させる。 ・単に公式を覚えるだけでなく、言葉の意味を理解させるための手立て（色分け・アンダーライン等）を取る。 ・知識の確実な定着を図ることができる学習課題を設定する。（つぼみタイム、振り返り等） ・自主学習において、各領域の内容をバランス良く取り組ませる。 ・家庭学習課題として、理解が進んでいない単元や全学年の内容の復習問題に取り組ませる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・道のりの差の求め方を記述する問いは、県とほぼ同じくらいできていた。 ・道のりの日常生活の場面に即して（三角形、距離等）イメージし、考えることが難しい。 ・文章から必要な情報を取捨選択できていない。 ・データを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できていない。 ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に取り組む時に、自分の考えを図表化したり、友達に説明したりする交流活動を仕組む。 ・問題文や資料から課題解決に必要な情報を選択し、整理していく学習活動を設定する。 ・複数のデータから全体と部分、部分と部分の間の関係を言語化して考えさせ、特徴や傾向を捉えることができるようにさせる。 ・課題解決のためのデータの収集の仕方の問題に取り組ませる。

◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	学習の中でコンピューター等のICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。⇒「役に立つと思う」
②	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。⇒「3時間以上4時間未満」
③	国語の勉強は好きですか。⇒「当てはまる」
④	学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。⇒「2時間以上」
⑤	自分には、よいところがあると思いますか。⇒「当てはまる」



分析と取り組み

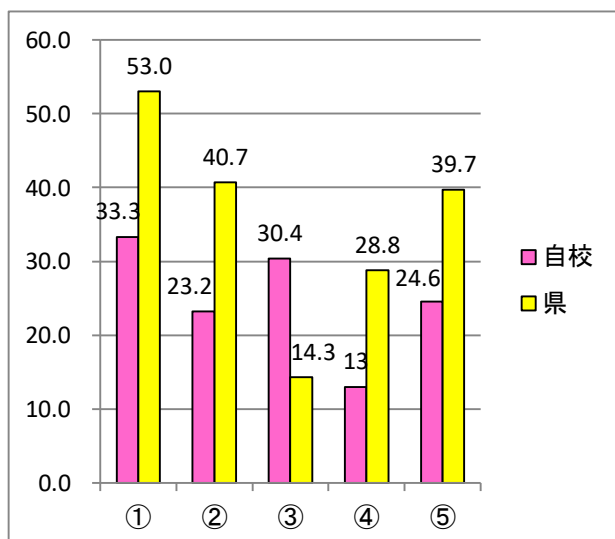
○学習への意識に関する質問項目で県平均を上回るものがいくつか見られ、学習に対する意欲が高いことが分かる。しかし、全体的に正答率が低いことから、意欲のある児童の差が大きいことや効率的な学習方法ができていないことが考えられる。そのため、授業や課題等で児童の実態に応じた学習方法や課題の調整を継続するようにする。

○ICTに対する関心が高いことが分かる。そのため、学習の中にICTを有効活用する手立てが効果的だと考えられる。タブレットの使用法を職員間や児童間で広めていくなど工夫が必要である。

○読書の時間が、比較的確保できている。低学年から、休日の「うちどく(家読)」に取り組むように、保護者に啓発していることで、家庭での読書に親しむような習慣化ができています。今後は、読書の内容が、さらに充実できるように、学年に応じた資料等を提供していく。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	算数の授業で公式やきまりを習う時、そのわけを理解するようにしていますか。⇒「そうしている」
②	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。⇒「きちんと守っている」
③	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしていますか。⇒「4時間以上」 ※逆項目の質問
④	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間、計画的に学習を続けることができましたか。⇒「当てはまる」
⑤	英語の勉強は好きですか。⇒「当てはまる」



分析と取り組み

○算数の公式やきまりを学習するときに、公式やきまりを導く過程における思考が十分ではない状況にある。数学的な思考・判断・表現が問われる場面で、粘り強く学んでいく姿を目指して、授業改善に取り組んでいく。

○学習に対して計画的に取り組めない実態があり、テレビゲームも長時間していることから、生活習慣を児童に見直しをさせ、ゲームなどによる健康被害等を指導する。また、情報モラルについて、道徳の授業や出前授業、各通信による情報発信を行い、児童への指導とともに、家庭への啓発を行っていく。

○英語の学習に対する抵抗がある児童が4割ほどいる。以前よりも、学習内容を難しく感じている様子が伺える。この実態を踏まえた上で、まずは、分かる授業への取り組みが急務である。